

令和元年 9月

榎田信平 学位論文審査要旨

主査 藤井進也
副主査 谷口晋一
同 永島英樹

主論文

Evaluation of age-related changes in lumbar facet joints using T2 mapping

(T2 マッピングを用いた腰椎椎間関節における加齢変化の評価)

(著者：榎田信平、谷島伸二、谷田敦、三原徳満、武田知加子、山下栄二郎、永島英樹)

令和元年 Journal of Orthopaedic Science 掲載予定

参考論文

1. セメントレスカップ設置後の寛骨臼外壁に行ったペースト状骨移植の短期成績

(著者：榎田信平、岸本勇二、上村篤史、永島英樹、岡野徹)

平成26年 中国・四国整形外科学会雑誌 26巻 241頁～245頁

審査結果の要旨

本研究は、MRI T2 mappingを用いて健常人における腰椎椎間関節のT2値を年齢階層別に調査し、年齢とT2値の関連性を検討したものである。その結果、加齢に伴い腰椎椎間関節のT2値は増加しており、年齢とT2値の間には強い正の相関関係を認めた。変性軟骨では、コラーゲン配列の不整化と水分含有量の増加を反映してT2値は増加するが、健常人であっても加齢に伴う軟骨変性は生じることから、T2値は年齢階層別に異なることが明らかとなった。本研究で算出した健常人腰椎椎間関節の年齢階層別T2値は、今後のT2 mappingを用いた研究において基準値となりうることを示唆したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。